

令和元年 8 月 30 日

「(日本医学会)遺伝医学用語に関する分科会へのアンケート」について
ご協力ありがとうございました。

先日メルマガ、ホームページ等を通じて、皆様にご協力をお願いしました遺伝医学用語に関する分科会へのアンケートについて、日本医学会へ下記のように報告いたしました(8月30日)。謹んで皆様のご協力に御礼申し上げます。

公衆衛生学会選出医学会用語委員 高橋秀人

-----ここから----

「優性」、「劣性」の代替語として、次の6つの用語を提案する。

1. 顕性, 潜性
2. 顕性, 伏性
3. 顕性, 隠性
4. 顕式, 伏式
5. ドミナント, リセッシブ
6. 表出性, 潜在性

上記の候補の中から、賛同頂ける用語があれば、1つを選んで回答してください。

学会のメルマガ、メールを用いて、ホームページを通じてアンケートの記入をお願いした(7/25).
8/20に締め切ったところ、計45通の回答があった。内訳およびいただいた意見は下記の通り

A. 上記の代替語に賛成する。賛成する用語 ()

- | | |
|--------------------|--------------|
| 1. 「顕性, 潜性」: | 21 通 (45.7%) |
| 2. 「顕性, 伏性」: | 1 通 (2.2%) |
| 3. 「顕性, 隠性」: | 3 通 (6.5%) |
| 4. 「顕式, 伏式」: | 2 通 (4.3%) |
| 5. 「ドミナント, リセッシブ」: | 2 通 (4.3%) |
| 6. 「表出性, 潜在性」: | 13 通 (28.3%) |

B. 上記のいずれも賛成できない 4 通 (8.7%) (重複回答により分母 46)

C. ご意見がありましたら、下記にご記載ください

- (1) まず、カタカナ表記は本質を表しにくく、当事者や家族を含め、「リセッシブ」は意味を理解されにくい場面が多いと考えられる。漢字が一文字増えるからという反対意見には賛成できない。「潜在性」という用語は医学的にも広く用いられており、「伏」と混同しやすい中国本土の簡字体に比べれば、はるかに明瞭である。また、「顕性」と「潜性」は音感が近く、混同されやすい。「隠性」は「隠す」という主観に基づく行動が含まれており、学術用語としては適切ではない。よって、「6」に賛成する。
- (2) 代替というより、優生学に基づいて「優劣」という言い方が主流となりましたが、原語の内容に従って、以前に使用していた用語に戻すということではないでしょうか。
- (3) 「顕性」、「潜性」は日本遺伝学会も提唱しており、客観性があり、統一されれば良いと思う。
- (4) サイエンスとして科学者にも一般の人にもしっかり伝わり、またできるだけ差別のニュアンス

スが入らない用語が良いのではないかと存じます。発音が似ている科学の単語は沢山ありますが(例. 科学 vs. 化学)、音で聞き取ってそれらを理解するハードルは、2つの同じ発音の科学用語の定義をどこかで習得するハードルに比べて小さくいものと存じます。逆に定義を理解していない方は異なる発音で科学用語が音になっていても正しくは理解されないのではないかと思います。つまり発音が同じことはあまり問題にしなくても良いのではないかと存じます。サイエンスの言葉としてその現象にぴったりで、中高生に分かりやすく且つ、英語の原義に対して素直な訳を望みます。

- (5) 「隠性」については「陰性」を連想し、negative な印象を持たれやすいという意見があるようだが、他の候補語にも課題はあり、二字で選ぶのであれば、「顕性、隠性」で良いと思う。余計な連想や間違いやすさを避けたいのであれば、3文字にして「表出性、潜在性」でよいのではないか
- (6) 「顕性」は、形質が「顕著」にあらわれるという意味で「隠性」は、形質が表出しない、または、かすかで目立たない「顕微」という意味から賛同します。ネガティブな意見として、「陰性」を連想するというのも分かりますが、時間とともにイメージも変わってくると思われま
- (7) 配布された文書および用語候補に関する説明で、ほぼ議論は尽くされていると考えられる。本来は「優性・劣性」を強いて変更する必要はないとも考えているが、ここまでくればやむを得ないとする。その意味では>「優性」、「劣性」という用語が不適切なようであるとして、これまでの用語を否定するという立場をとることはせず、「優性」、「劣性」は括弧書きで(優性)、(劣性)で示すということにしたいというWGの考え方には全面的に賛同する。
- (8) 4および6も、それなりの良い代替語と思うが、教科書では、1を使用することとなり、学校で習う用語と別な用語では、混乱が生じると思う。
- (9) 5. が、最も適しているが、カタカナ語で、できれば避けたい。
- (10) 確かに、優れているものと、劣っているものという価値が付随した表現は、改訂すべきだと思いましたが、6番でも良いと思いますが、簡潔な表現で1番を選びました。
- (11) 日本遺伝子学会に追従する形でいいと思います。
- (12) 『表出性』とインターネットで検索した際、ほとんどの検索結果が言語(発達)障害に関連する記事やブログ等で溢れ、言葉自体にあまり印象が良いとは思えませんでした。もし、表出性だと聞かされた時に個人で調べた場合、誤解や要らぬ不安要素が生じる可能性を考えます。意味が変わってしまっていたら申し訳ありませんが『現出性』など、他の言い回しの検討をお願いしたいと思います。『潜在性』については賛成したいと思います。
- (13) 特に変える必要を感じていませんでしたが、変えれば「2」が最も意味が近く、適切と思います。
- (14) 優性・劣性は、既に、常用語として使用され、一般的な「優・劣」とは異なる意味であることから、今更変更することは、却って混乱を招くのではないかと考え、代替に反対します。
- (15) ワーキンググループ検討結果によると「診療現場と教育・社会の場で捉え方かなりの違いが見られる」とのことですが、学術用語をそのまま一般的に使用する用語として扱っている結果ではないかと考えます。一般的に使用する用語として、一般の人にも分かりやすい用語であることに重点を置くのであれば、6の「表出性・潜在性」が適当ではないかと思ひますし、学術用語として適切かどうか重点を置くのであれば、1の「顕性・潜性」が望ましいと思ひます。
- (16) 顕(ケン)、潜(セン)、隠(イン)いずれも〇ンの発音であり、聞き間違いを誘発するリスクが高いと思ひます。正式な学術用語となれば、臨床の現場でも多用されることは必然で、遺伝病のカウンセリングなどの際にも、事故を誘発しないようにすべきと考えます。個人的には、顕性と匿性(ケンセイとトクセイ)なら聞き間違いが防止できると考えます。この考え方からすると2番の顕性、伏性も聞き間違いは防止できると考えますが、フクセイ遺伝子という発音からは、複製遺伝子(クローン)が連想されることが多く、学術用語としては不適切と考えます。
- (17) 文字を見た時には1でもよいが、聞いたときにわかりにくいと思う。6が最も理解しやすい。

----ここまで---

令和元年7月23日
日本医学会分科会
理事長・会長殿

日本医学会医学用語管理委員会
委員長 脊山 洋右
遺伝学用語改訂に関するワーキンググループ
座長 辻 省次

遺伝学用語に関するアンケートのお願い

遺伝学用語改訂に関するワーキンググループでは、適切な遺伝学用語について検討を行ってまいりました。2018年12月11日に、日本医学会公開シンポジウム「適切な遺伝学用語のあり方」を開催し、幅広い分野の方々にご登壇をいただき、討議を深めました。また、このシンポジウムの中で、分科会の皆様から頂きましたアンケート結果も報告をさせていただきました。

その後、本ワーキンググループで討議を重ね、その過程で新たな候補用語も提案されましたことから、分科会の皆様に、「優性」、「劣性」の遺伝学用語に関する検討経過のご報告をさせていただき、改めて、新たに提案された用語を含めて、分科会の皆様のご意見を頂きたいと考え、ご連絡を差しあげることとなりました。

なお、7月8日に、日本学術会議から、「高等学校の生物教育における重要用語の選定について（改訂）」というタイトルの「報告」が公表されました。この報告は、高等学校の生物教育における重要用語を選定して提案するというもので、この中で、顕性、潜性が取り上げられ、優性、劣性が別名・別表記として示されています。遺伝学用語に関しては、高等学校の生物だけでなく、広く、社会、医療に及ぶ重要なセンシティブな用語であることから、日本医学会として、適切なプロセスの上で用語を定めていくことが肝要であると考えており、その点で、日本学術会議にも申し入れをして、連携しながら、広く社会に受け入れられる用語の選定を実現したいと考えておりますことを申し添えます。

記

アンケートの締め切り 8月30日（金）（必着）

アンケートの送付先 （メールの場合 長門宛） hnagato@po.med.or.jp
(FAX) 03-3942-6638

本件に関する連絡先：
日本医学会事務局 担当 長門
03-3946-2121（内2041）
FAX 03-3942-6638
hnagato@po.med.or.jp

【遺伝学用語改訂に関するワーキンググループにおけるこれまでの検討結果について】

遺伝形式に関する、「優性」、「劣性」の用語については、教育の場や社会の中で、優劣という語感が強く影響することもある。その結果、遺伝学用語として正確に理解されにくく、誤解されやすいことが指摘されている。また、「優性」、「劣性」という言葉そのものも、**dominant, recessive**という言葉の本来の意味を、必ずしも正確に表していない点もある。

一方で、分科会に対して行ったアンケート結果では、医療現場で、「優性」、「劣性」という言葉が、特に、患者さん、ご家族が、差別的な受け取り方をする場面はあまりなく、現状の用語で問題ないという意見もかなりみられ（改訂の必要なしとする意見が 24%、必要ありとする意見が 41%）、その他として回答した分科会では、分科会の中で意見が分かれたところもかなりみられた。

以上のように、診療現場と、教育・社会の場の間で、とらえ方にかなりの違いが見られる。しかしながら、「優性」、「劣性」という用語が、優劣という強い語感を持つことから、その結果として、社会において、正確な遺伝学用語としての理解を妨げる場面が少なくないことを熟慮し、より適切な用語を定めた方が良いという点で委員会としての意見が一致した。

「優性」、「劣性」という用語が不適切な用語であるとして、これまでの用語を否定するという立場をとることはせず、より適切な用語を提案することとしたい。従って、新たに提案する用語を示した上で、従来使われてきた「優性」「劣性」の代替語であること示し、「優性」、「劣性」は括弧書きで（優性）、（劣性）で示すこととしたい。

前回の分科会に対するアンケートでは、用語を変更するとすれば、「顕性」、「潜性」とするという意見が多数であった(41/62)。このことは、尊重する必要がある。一方、公開シンポジウム「適切な遺伝学用語のあり方」で、幅広い分野の方々から発表を頂き、議論を深めることができ、その過程で、新たな用語の提案がなされたこともあり、遺伝学用語改訂に関するワーキンググループとして、適切と考える用語について、さらに議論を煮詰めた上で、改めて、提案する用語候補を定め、それぞれの用語に対するワーキンググループの意見も含めて分科会に提示して、分科会の意見を集約し、用語を定めるというプロセスを取る事が適切であると考えた。

以上の議論の上で、遺伝学用語改訂に関するワーキンググループでは、次のような点で合意がなされた。

1. 「優性」、「劣性」という用語に替えて、より適切な遺伝学用語の提案を行うこととする。
2. 「優性」、「劣性」という用語については、括弧書きで、（優性）、（劣性）と示すこととする。
3. 分科会に対して提案する候補用語としては、次の用語とする。

顕性、潜性

顕性、伏性

顕性、隠性

顕式、伏式

ドミナント、リセッシブ

表出性、潜在性

それぞれの用語について、ワーキンググループの中で出されたコメントを、表に整理して示す。

表 提案する用語候補と、それぞれの用語についてのワーキンググループのコメント

Dominant	Recessive	Positive な意見	Negative な意見
顕性	潜性	歴史的にも日本で提案されてきた用語である。「顕性」「潜性」ともに、本来の意味を正確に表現している。誤解されやすい強い語感のある「優性」、「劣性」に比べれば説明がなくても理解しやすい。	漢字が難しい。聴覚上の識別性(発音が似ている)、視覚上の識別性(画数がほぼ同じ)が懸念。歴史的に根付かなかった点も考慮。
顕性	伏性	「伏性」は、Recessive の本来の意味を正確に表現している。視覚、聴覚上の識別性も良い。	遺伝学で良く用いられる DNA 複製と同じ発音、一般社会では複製と紛らわしいかもしれない。(漢字について脚注あり)
顕性	隠性	中国で用いられている用語であり、dominant, recessive の本来の意味を、漢字として正確に表現している。	隠性は、陰性を連想し、negative な印象を持たれやすい。
顕式	伏式	遺伝形式を表すという点で、「式」を加えることに意義がある。「伏性」とした時の「複製」と同音であることが解消される。	形容詞的な言葉になるために、少し用いにくい場面が出るのでは？
ドミナント	リセッシブ	漢字1文字で表現しようとするとうちでも無理が生じる。いっそのこと、カタカナ用語にしては？	和語としての、用語を定めるのが本来のあり方。
表出性	潜在性	漢字1文字で表現しようとするとうちでも無理が生じる。特に、教育現場、社会で理解しやすくするという点では、2文字にして、内容をわかりやすく表現する用語にするのが良いのでは？「表出性」、「潜在性」という言葉であれば、理解しやすい。聴覚上、視覚上の識別性の懸念もない。	文字数が1つ増えることは、用語としては、好ましくなく、できるだけ少ない文字数にした方がよい。

脚注：「伏」が、中国本土の簡体字の「优」（優の簡体字）と似ていることには留意。ただし、「优」は日本で用いられることはない。